

# カリキュラム開発研究 研究構想図

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
東村山市立東村山第二中学校 主任教諭 力丸 仁孝

<p><b>【社会背景】</b> ・新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」 ・日本の学校教育は人と安全・安心につながるができる居場所としての福祉的な役割も担ってきたことの再認識 (令和3年1月26日中央教育審議会答申)</p> <p><b>【今日的な教育課題】</b> ・学校段階間の連携の強化が必要 (令和3年1月26日中央教育審議会答申) ・多様な他者と協働して創造的に課題を解決する力を身に付けることが重要である (中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編)</p>	<p><b>【東京都教育委員会の教育目標】</b> ・互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間 ・社会の一員として、社会に貢献しようとする人間 ・自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間</p> <p><b>【東京都教育ビジョン(第5次)】</b> ○[柱1]自ら未来を切り拓く力の育成 ②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 ・授業改善に資する研究・研修の推進 ③いじめ防止等の対策や自殺対策に資する教育等、健全育成に係る取組の推進 ・「いじめ総合対策」の着実な推進</p>	<p><b>【教科等の課題】</b> 小学校の特別活動で身に付けた話し合い活動の基礎が、中学校の特別活動で生かされていない現状がある。そのため、小中が連携を図り、小学校段階からの学びを生かした合意形成ができる特別活動の授業が必要である。</p> <p><b>【所属校の実態】</b> 話し合い活動において、合意形成よりも多数決による決め方に頼ってしまう部分が見られる。個人の課題には気付くことができるが、集団としての課題をとらえることが難しい生徒が多く在籍する。</p>
<p><b>【育てたい児童・生徒像】</b> 互いのよさや可能性を發揮しながら学級の課題を解決することのできる生徒</p>		
<p><b>【先行研究】</b> 合意形成のための思考を促す学級活動の指導の工夫 — 「合意形成ステップシート」を活用した学級会の取組を通して — 呉市立港町小学校 陰 菜穂子 (2017年) 話し合い活動におけるICTの効果的な活用のための練習プログラムの開発 — 主体的に合意形成を図る児童の育成を目指して — 愛媛県総合教育センター 崎須賀 悠 (2021年)</p>		
<p><b>【研究主題】</b> 互いのよさや可能性を發揮しながら、学級の課題を解決するために合意形成を図ることができる生徒の育成 ～中学校での話し合い活動において思考のスキルを働かせる「話し合い活動実践ツール」の活用～</p>		
<p><b>【主題設定の理由】</b> 中学校学習指導要領(平成29年告示)には、特別活動の目標として「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して資質・能力を育成することを目指す」と記されている。また、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編では「集団における合意形成では、批判的思考力をもち、他者の意見を受け入れつつ自分の考えも主張できることが大切である。そして、異なる意見や意思をもとに、様々な解決の方法を模索し、問題を多面的・多角的に考えて、解決方法について合意形成を図ることが、『互いのよさや可能性を發揮しながら』につながるのである。」と記されている。合意形成を図る際に、周囲の意見に流されるのではなく、批判的思考力をもって様々な視点や立場から自分なりの考えをつくっていくことが大切である。以上の学習過程を通して、学級の課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図ることができる生徒を育成する。</p> <p><b>【副主題設定の理由】</b> 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編では「中学校においては、話し合い活動における学校間、教師間の取組に差が見られ、話し合い活動に対する十分な理解の下に実践が行われてきたとは言いがたい状況が見られる」と記されている。さらに、このような実態を踏まえ、学級活動における内容の取扱いについて、「小学校の学級活動の経験を生かし、それらを発展させることができるよう工夫すること」と記されている。そこで、学級活動のオリエンテーションで、開発物となる一人1台端末のオンラインホワイトボードを活用した「話し合い活動実践ツール」を導入し、多様な意見を整理・分析する際の視点の説明を基に、思考のスキルについて体験的に学び、習得していく。そうすることで、批判的思考力をもち、多様な意見を生かすことにつながり、よりよい合意形成を図ることができるようになることを考える。</p>		
<p><b>【研究仮説】</b> 話し合い活動において、生徒が多様な意見を思考のスキルである、【比較】や【分類】、【関連付け】できるようになれば、学級の課題を解決するためのよりよい合意形成を図ることができるだろう。</p>		
	<p>目的</p>	<p>資料・方法(実施予定月)</p>
<p>基礎</p>	<p>・小中学校での特別活動における話し合い活動や合意形成の実践事例を調べる。</p>	<p>・文献、先行研究を調べる。(学習指導要領等) 4月から5月まで</p>
<p>調査</p>	<p>・所属の自治体の生徒の実態把握 ・所属の自治体の教員の実態把握</p>	<p>・所属校での授業見学と担任との面談 ・所属自治体での質問紙法の実施 7月から8月まで (生徒は中学校、教員は全小中学校対象)</p>
<p>開発</p>	<p>・調査研究の分析</p>	<p>・開発物の作成「話し合い活動実践ツール」 7月から10月まで</p>
<p>検証</p>	<p>・検証授業を所属校第一学年で行う。</p>	<p>・検証授業実施前に学級活動委員会の生徒と事前打ち合わせを行う。 ・検証授業後、質問紙法と発話分析実施 8月から10月まで</p>

## 研究主題

「互いのよさや可能性を發揮しながら、学級の課題を解決するために  
合意形成を図ることができる生徒の育成

－中学校での話し合い活動において

思考のスキルを働かせる『話し合い活動実践ツール』の活用－

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課

東村山市立東村山第二中学校 主任教諭 力丸 仁孝

### 第1 研究のねらい

中学校学習指導要領解説特別活動編（平成29年7月）（以下「解説」という。）には、「集団における合意形成では、批判的思考力をもち、他者の意見を受け入れつつ自分の考えも主張できることが大切である。そして、異なる意見や意思をもとに、様々な解決の方法を模索し、問題を多面的・多角的に考えて、解決方法について合意形成を図ることが、『互いのよさや可能性を發揮しながら』につながるのである。」と記されている。合意形成を図る際、周囲の意見に流されるのではなく、批判的思考力をもって様々な視点や立場から自分なりの考えをつくることが大切である。

また、解説では「中学校においては、話し合い活動における学校間、教師間の取組に差が見られ、話し合い活動に対する十分な理解の下に実践が行われてきたとは言いがたい状況が見られる」と記されている。さらに、このような実態を踏まえ、学級活動における内容の取扱いについて「小学校の学級活動の経験を生かし、それらを発展させることができるよう工夫すること」と記されている。そこで、学級活動のオリエンテーションで、小学校での学級会で経験してきた話し合い活動での思考のスキル（「比較」、「分類」、「関連付け」等）を体験的に学べる「話し合い活動実践ツール」を開発・導入する。そうすることで、中学校においても批判的思考力をもち、多様な意見を生かして、よりよい合意形成を図ることができるようになる。これを研究のねらいとし、思考のスキルを活用して話し合い、学級の課題解決に向けて多様な意見を生かして合意形成を図ることができる生徒を育成する。

### 第2 研究仮説

話し合い活動において、生徒が多様な意見を思考のスキルである、【比較】や【分類】、【関連付け】できるようになれば、学級の課題を解決するためのよりよい合意形成を図ることができるだろう。

### 第3 研究の内容と方法

#### 1 基礎研究

中学校の話し合い活動における議題例と各話し合いで必要とされる思考のスキルについて整理・分析し、調査研究、開発研究及び検証授業に生かした。

#### 2 調査研究

##### (1) 対象及び目的

##### ア 生徒（都内公立中学校生徒 1243人）

話し合い活動における思考のスキル活用に関する意識の実態を調査する。

##### イ 教員（都内公立小中学校教員 127人）

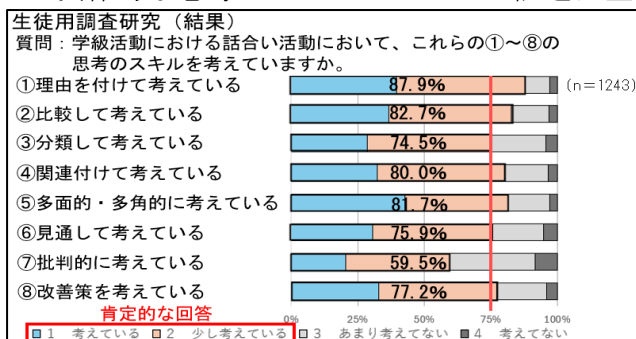
話し合い活動において指導が難しいと感じる場面の意識の実態を調査する。

## (2) 調査の内容及び結果

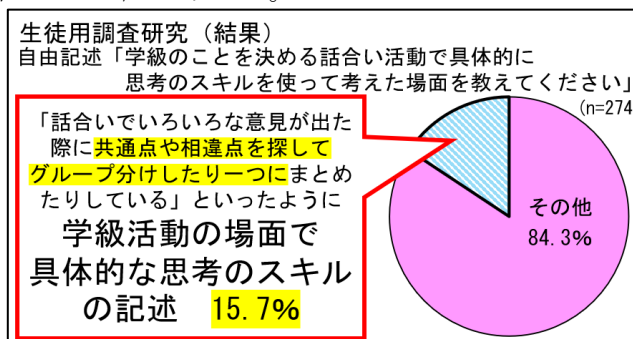
### ア 生徒

図1の生徒用調査研究では、解説を参考に学級活動における話し合い活動で、特に重要だと捉えた思考のスキル8点について質問した。その結果、質問⑦以外は肯定的な回答をした生徒が75%程度であった。

また、8点の思考のスキルについて、図2の自由記述「学級のことを決める話し合い活動で具体的に思考のスキルを使って考えた場面を教えてください」の回答では、学級活動の場面で具体的な思考のスキルについての記述は全体の15.7%であった。



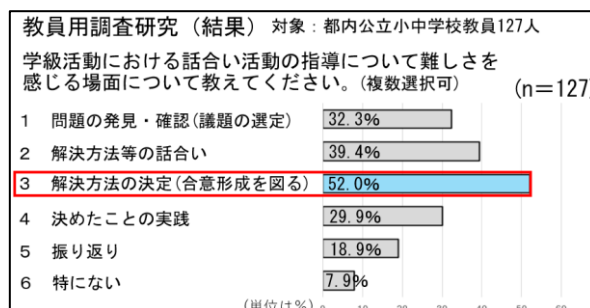
「図1 生徒用調査研究（結果）」



「図2 生徒用調査研究（結果）自由記述」

### イ 教員

教員用調査研究では、「学級活動における話し合い活動の指導について難しさを感じる場面」（複数回答可）として最も多かったのは、「3 解決方法の決定（合意形成を図る）」で52.0%であった。次に多かったのは、「2 解決方法等の話し合い」で39.4%であった。上位2回答は、いずれも学級全体での話し合い活動の場面における指導であった。



「図3 教員用調査研究（結果）」

## (3) 分析

生徒たちは、おおむね思考のスキルを活用できていると感じているが、自由記述の回答からは、学級活動の話し合い活動において活用することに課題があると考えられる。

また、教員用調査研究では、回答した半数以上の教員が話し合い活動における合意形成に対して難しさを感じている。学級活動の場面において、生徒たちが思考のスキルを活用し合意形成を図る場面について、調査研究の結果から生徒・教員ともに課題がある（難しさを感じている）というものだった。

これらの結果から、生徒たちが思考のスキルを活用し、合意形成を図れるようにするために、学級活動における話し合い活動を想定して体験的に学び、実際の話し合い活動の場面で活用できるようにするための教材（開発物）が必要であると考えた。

## 3 開発物

調査研究の分析を踏まえ、一人1台端末のオンラインホワイトボードを活用した「話し合い活動実践ツール」を開発した。本開発物を生徒が活用することで、思考のスキルである「比較」、「分類」、「多面的・多角的な視点」等の方法について体験的に学び、身に付け、話し合い活動においてよりよい合意形成を図ることができるようにする。

「話し合い活動実践ツール」は、以下の図4～7の手順で活用する。図4～7は思考のスキル「批判的思考、多面的・多角的、関連付け」での事例である。

「図4 議題や提案理由、活動例を提示」

「図5 入力用シート（批判的思考）」

「図6 入力用シート（多面的・多角的）」

「図7 入力用シート（関連付け）」

#### 4 検証授業（全5時間）

##### (1) 検証授業の内容

時間	議題等	授業内容の概要
第1時	「夏休み明け学級のみんと交流して、2学期を始めよう」	1 単位時間の中で「話し合い活動」と「決めたことの実践」を行うことで、話し合い活動と実践がつながっていることを実感し、小学校での経験を想起できるようにする。
第2時	学級会オリエンテーション『話し合い活動実践ツール』の活用①」	「比較」、「分類」、「理由付け」を体験的に学び、次の話し合い活動に生かす。
第3時	「合唱コンクールの係活動を通して学級をよりよくしよう」	合唱コンクールに向けて、学級をよりよくするための係活動の工夫を考える。事前に係活動の案を出した状態で、意見を「比較」する段階から話し合う。
第4時	学級会オリエンテーション『話し合い活動実践ツール』の活用②」	「批判的思考」、「多面的・多角的な視点」、「関連付け」を体験的に学び、次の話し合い活動に生かす。
第5時	「スキー移動教室で学年レクをしよう」	スキー移動教室において、学年みんなで関われる取組を各学級で考える。学年による取組のため、生徒の多様な意見を「多面的・多角的な視点」で考え、批判的思考を働かせて話し合う。

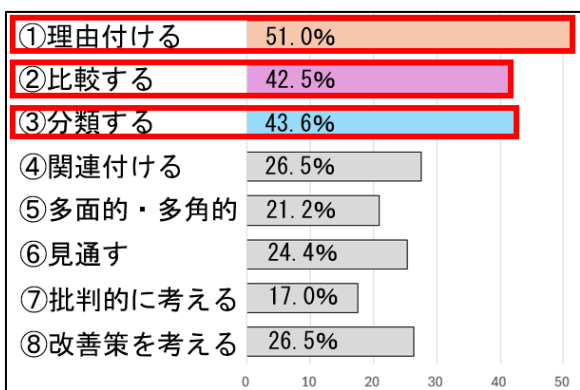
## (2) 検証授業の分析

### ア 授業後の振り返りによる開発物と思考のスキルの関係性

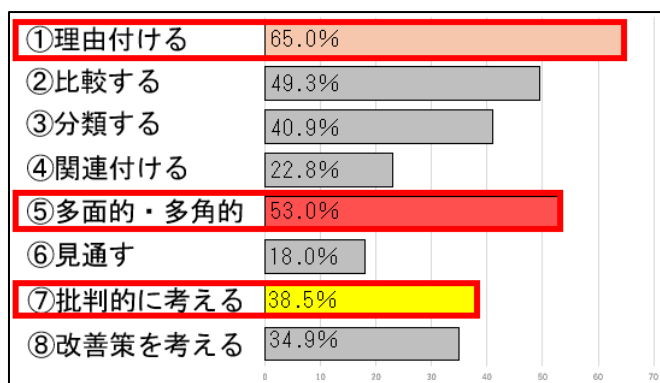
第2時と第4時に開発物「話し合い活動実践ツール」を活用した授業を行った。このときに体験的に学んだ経験が話し合い活動に生かされているかを検証するために、第3時と第5時の話し合い活動終了後に振り返りを行った。

図8は第3時終了後に行った振り返りの結果である。第2時で「比較」や「理由付け」、「分類」の内容について扱ったことにより、第3時でも生徒たちは意識して話し合いに臨み、振り返りの結果では「理由付ける」が51.0%、「比較する」が42.5%、「分類する」が43.6%と、他の思考のスキルよりも高い数値を示した。

図9は第5時終了後に行った振り返りの結果である。第4時で「多面的・多角的」と「批判的思考」について扱ったことにより、第3時の振り返りの結果よりも「多面的・多角的」は31.8ポイント、「批判的思考」は21.5ポイント上昇した。



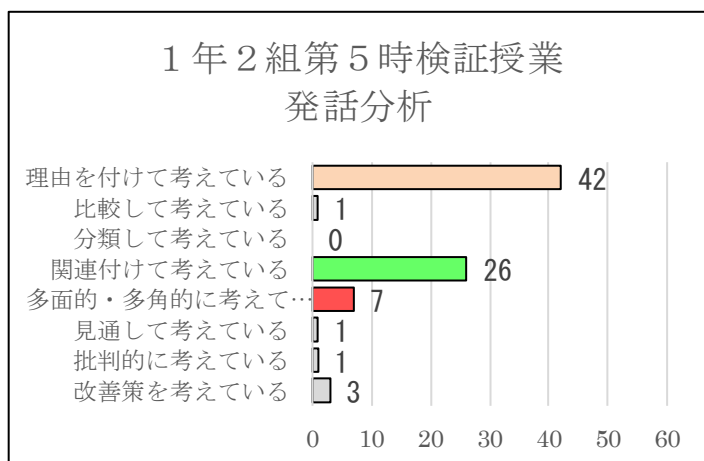
「図8 第3時 話し合い活動で意識して使った考え方はどれですか（複数選択可、n=94）」



「図9 第5時 話し合い活動で意識して使った考え方はどれですか（複数選択可、n=83）」

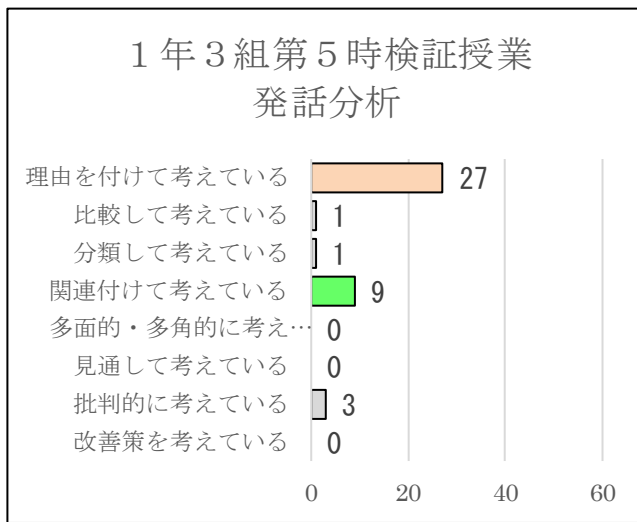
### イ 検証授業第5時の発話分析

図10、図11、図12は検証授業第5時の生徒の発話分析である。授業中の生徒の発話を録音したものを、文字起こしをして分析を行い、どの思考のスキルに分類される発話が多かったのかをグラフに表したものである。

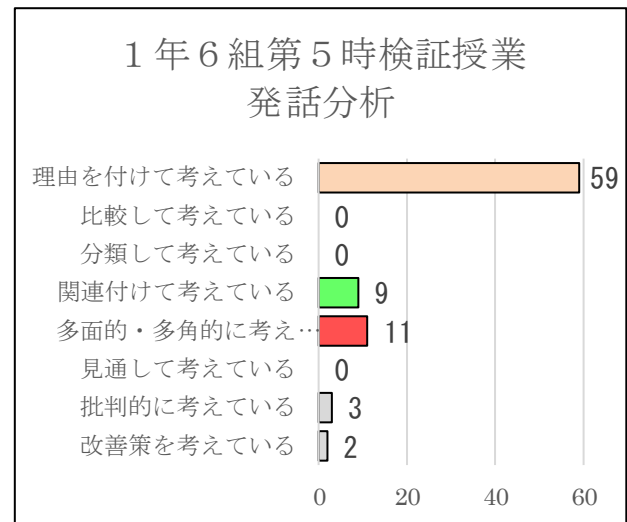


「図10 1年2組第5時検証授業発話分析」

上記図9の振り返りの結果よりも「理由付け」や「関連付け」が多く見られた要因として、話し合い活動の流れの中で、生徒たちが自分の意見に対して、議題や提案理由等と関連付けながら、自分の意見の理由について発言するところから始まったためだと考えられる。



「図 11 1年3組第5時検証授業発話分析」



「図 12 1年6組第5時検証授業発話分析」

## ウ 振り返りの結果

### (7) 第5時検証授業後振り返りの結果

第5時検証授業終了後に自由記述で振り返りを行った。「話合いの感想・決まったことや自分の今後の活動等について頑張りたいことなどを書いてください」という質問では、表1に示す回答の他、「思考のスキルを活用しながら合意形成を行うことができた。」等の記述が見られた。

「表1 第5時検証授業の振り返り 自由記述 話合いの感想・決まったことや自分の今後の活動等について頑張りたいことなどを書いてください。」(結果)

自由記述回答	思考のスキル
話合いでは、みんなで議論ができていて、 <u>いろいろな方面からも考える</u> ことができた。	多面的・多角的
これからも積極的に意見を出し、 <u>比較をして類似点や相違点を見つけて意見をまとめたい。</u>	比較・分類
前回タブレットを使用した授業を行ったおかげで、意見を考える際に、最初の話合いではできなかった <u>反対意見をよく考える</u> ことができた。	批判的思考

### (4) 調査研究の振り返りの結果

全ての検証授業が終了した後に、事後の振り返りを行った。「学級のことを決める話合い活動で思考のスキルを使ったり意識したりした具体的な場면을教えてください。」という質問では、事前調査の時には、話合い活動以外の場面に対する記述、思考のスキルに触れていない回答が多かったが、事後の振り返りでは68%の生徒から表2のような回答が見られた。

「表2 事後の振り返り 質問 12 学級のことを決める話合い活動で思考のスキルを使ったり意識したりした具体的な場면을教えてください。」(結果)

自由記述回答	思考のスキル
今までの話合い活動で賛成反対の自分の意見を言う場面で、なぜ賛成、反対なのかにきちんとした <u>根拠</u> を付けて説明した。	理由付け
反対意見がたくさん出たときに、反対意見に対しての <u>改善策</u> を考えた。	改善策
意見が出たときにこの意見は <u>どこかと一緒にできないか</u> と考えた。	関連付け・分類

事前アンケートの「学級でやりたいこと」について決めるときに、どの意見が同じもしくは似ているのかを考えた。	比較
意見が分かれた場面に <u>違う立場で考えた。</u>	多面的・多角的
第5回の賛成・反対の意見を考える場面で、それぞれの提案に関して <u>話し合いの議題に沿っているかを考えた。</u>	関連付け
反対意見を考えるときに、 <u>批判的思考を使って</u> いろいろなアイデアを出した。	批判的思考

#### 第4 研究の成果

成果として、検証授業での発話や振り返りの結果を踏まえ、生徒たちは、開発物での体験を通して思考のスキルを認知し、話し合い活動で実際に活用することで、合意形成を図るための素地を形成することができた。

#### 第5 今後の課題

課題としては、授業内の発話や授業後の振り返りが、議題やねらいに沿ったものになるよう継続した指導が必要だと感じた。

また、生徒が合意形成のプロセスを理解するためには、思考のスキルを体験的に学ぶだけでなく、教師が多様な考えを取り上げて指導する等の他者参照に向けたファシリテーション力を高めることが課題である。

今後も、開発物による思考のスキルを意識した話し合いを積み重ねることで、活用方法を探究していく。